

2003～2004年度日本広報学会研究会報告書

サステナビリティレポート
と
社会責任投資

Sustainability Report & Social Responsibility Investment

『サステナビリティレポートと社会責任投資』研究会

2005年5月

日本広報学会

Japan Society for Corporate Communication Studies

巻頭の言葉

社会を構成するユニットとして、それが法人格を付与されたものである以上、いわゆる社会の安定的発展に寄与貢献していくのは当然である。社会の価値観を反映する”きまり”に従って、企業の行動規範は策定され、その行動を起こさせる動機そのものも社会の長期的な安定を考慮したものでなければならない。

また、社会の総合的な価値観は、社会を構成する個人や集団の持つ個別の価値観の複雑な集積体であり、中には折衷調整の作業プロセスから確定してきたものである。その複合体は、ダイナミズムを持ち、一定の法則や公式で判断されるものでなく、長い歴史の中で変革を遂げ、改革されてでき上がったものであり、将来にわたり、その変革を続けていくものである。

この社会の大きな構成員としての企業は、一つの明白な存在目的を主張する。それは、広義の生産活動を通じて、社会のニーズに対応して経済活動をする組織体であり、その業績はそうした活動から付加される利益とその蓄積で評価される。現代社会において、企業の持つ社会的・経済的影響力が増大するに従い、その社会的責任が強く要請されるようになった。企業は、与えられた経営資源を合理的・科学的に利用し、営利目的をもって生産活動に励むとともに、それが立地する社会の他の構成員の利害を尊重し、福祉に貢献すべきであり、利潤動機のみでなく、奉仕の動機を持つべきものと要求されている。

資本主義の高度化に伴って、営利第一主義の行動規範が修正され、社会奉仕重視の倫理的な規範が追加されたのである。

本報告書は、日本広報学会からの委託を受け 2003 年 4 月より 2005 年 3 月まで行った研究会「サステナビリティレポートと社会責任投資」の成果を取りまとめたものである。

(研究会主査: 株式会社 日本エンジェルキャピタル 代表取締役 上田 武)

目次

巻頭の言葉	1
第1章 企業のCSRへの取り組みの実態調査	3
1-1 「企業のCSRへの取り組みの実態調査」の実施について	5
1-2 企業のCSRへの取り組みの実態調査結果	5
1-3 企業のCSRへの取り組みの実態についての考察（第11回研究会内容）	23
第2章 「サステナビリティレポートと社会責任投資」考察	43
2-1 社会的責任とリスクマネジメント	
上田 武（株式会社 日本エンジェルキャピタル）	45
2-2 Can Reputation Win Sustainability?—A Japanese Perspective	
秋本敏男（東洋大学） 山内清史（神奈川大学）	51
2-3 CSRとステークホルダー	
末吉行雄（日経リサーチ）	67
2-4 金融機関が果たす役割への期待	
河東康一（株式会社 環境管理センター）	69
第3章 「サステナビリティレポートと社会責任投資」に関する提言	71
3-1 SRIに対応した企業の社会的責任(CSR)（第12回研究会内容）	73
3-2 CSR経営の時代（第13回研究会内容）	89
第4章 付属資料	103
4-1 研究会メンバー	105
4-2 研究会実施内容	106
おわりに	109